

指定管理者評価シート

R3年7月15日 案

事業名	サッポロさとらんど運営管理費	所管課(電話番号)	経済観光局農政部農政課(211-2406)
-----	----------------	-----------	-----------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市農業体験交流施設 (サッポロさとらんど)	所在地	札幌市東区丘珠町584番地2
開設時期	平成7年(1995年)7月22日	延床面積	743,000m ² (管理面積558,000m ²)
目的	市民文化の向上及び農業の振興		
事業概要	農業に関する体験実習の場の提供、緑とのふれあい、憩う場の提供等		
主要施設	<ul style="list-style-type: none"> さとらんどセンター(農産・畜産加工室、会議室、売店、レストラン他) さとらんど交流館(多目的ホール、調理室、会議室) 市民農園 各種体験農場 ふれあい牧場 		
2 指定管理者			
名称	さとみらいプロジェクトグループ(雪印種苗株、大星ビル管理株)		
指定期間	平成30年(2018年)4月1日～令和5年(2023年)3月31日		
募集方法	公募		
指定単位	施設数:1施設 複数施設を一括指定の場合、その理由:		
業務の範囲	施設・設備等の維持に関する業務、農業体験に関する業務、緑とのふれあい、憩うことのできる場を市民に提供する業務、農業者と消費者の交流の場を提供する業務、農業に関する情報の収集・提供業務、農業に関する研修講習等の場の提供業務、使用承認等に関する業務、その他さとらんど設置目的を達成するため必要な業務		
3 評価単位	施設数:1施設 複数施設を一括指定の場合、その理由:		

II 令和2年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価
1 業務の要求水準達成度			
(1) 統括管理業務	<p>▽ 管理運営に係る基本方針の策定</p> <p>「さとみらいプロジェクトグループ」は、1.経費の効率化と効果的運用、2.食と農に関する情報発信、体験学習事業の充実、3.農業への理解を広げるイベント、施設の魅力向上への取組み、4.健全かつ良好な空間づくり、5.市民が安全安心に利用できる管理運営、6.民間企業のノウハウを活かした運営の効率化、7.事業運営の透明性確保 といった基本方針を策定し、基本方針に基づいて適切な管理運営を行った。</p> <p>▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績</p> <p>①コンプライアンス(法令遵守)の徹底に基づく運営と利用の場の確保、②各種規程による平等利用の確保と従業員教育による安定的なサービスの提供、③ホームページの充実による情報発信機能の強化といった方針を策定した。「各種体験」「講座」等の利用受付は先着順で行う等、常に平等利用を確保し、公平・公正を意識した運営を行った。</p>	<p>策定した基本方針を実現し、適切な管理運営を行った。</p> <p>全体をととして利用者の平等利用を確保し、公平・公正な運営を行った。</p>	<p>A B C D</p> <p>さとらんどを設置目的及び基本的方向性を実現するための基本方針に基づき、良好な管理運営を行ったものと評価する。</p> <p>さとらんどにおける平等利用を確保するための方針に基づき、各取組を実施することで公平・公正な運営を確保したものと評価する。</p>

▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進

地球温暖化防止対策及び環境配慮の推進として、下記の取り組みを行った。①冷暖房期間・時間・温度・対象施設の調整、不要照明の消灯励行などの節約運動、これ以外の電気、水道、油、ガス等の使用の節約。②コピー用紙等の消耗品のグリーン購入ガイドライン指定品の使用。③6月に全職員を対象とする環境マネジメント研修を実施。④省エネ法、温対法、札幌市環境マネジメントシステムに則り、各種報告書、各種帳票類を提出。⑤自転車使用を励行、保有車両の使用頻度抑制とアイドリングストップを実施。なお、不要照明の消灯励行や冷暖房温度の調整、節水等については来園者にも協力を働きかける取り組みを行い、ご協力頂いた。

▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)

統括責任者である施設長の指示の下、副施設長2名で指示命令機能を分散し、非常時には統括・指揮機能の拡充を図る効果的な組織運営体制として事業の運営を行った。又、さくらなどの業務を9つの部門に分けて部門毎に部門長を配置し、業務毎に行き届いたサービスを提供した。職員が業務に対し同じ認識を持って質が高く同一のサービス提供を行うよう、又、業務毎の専門的な知識・能力を向上させサービスと業務品質の向上に寄与するよう研修計画を作成し、安全教育、マナー接客教育、個人情報保護研修、関係法令研修、消防訓練、防災教育、安全衛生研修、環境マネジメント研修、専門技術講習等、職員の教育・研修を行った。

▽ 管理水準の維持向上に向けた取組

毎月の部門長会議において管理水準の向上に向けた協議を行った。又、業務遂行についても部門長会議で協議を行い、イベント開催時等には部門を横断した応援体制を構築した。安全対策・事故防止等についても協議を行い、部門毎に毎月実施した安全教育のうち組織全体に関係する事項の情報共有や、全職員を対象とする安全衛生研修(10月)等を行った。

▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

清掃業務、警備業務、保守管理業務、修繕業務、冬季園内除雪等について第三者委託を行った。受託業者に対して必要な指導、指示、検査、確認を行い適正な業務遂行を実現した。委託にあたっては市内業者を積極的に活用(例:修繕工事において委託件数及び委託金額の75%以上を委託)した。例年、障がい者の就労支援に協力するためラベンダー畑やレンガ花壇の除草業務を知的障がい者施設へ委託しているが、令和2年度はコロナ禍のため委託を断念せざるを得なかった。

環境マネジメント研修等の取り組みを実施して省エネに努めた。又、職員だけでなく、来園者にも不要照明の消灯励行、節水等地球温暖化対策及び環境配慮の推進についての働きかけを行ってご協力頂いた。

質の高いサービス提供を目指し9部門を設置、9部門長を配置し、業務毎に行き届いたサービスを提供した。又、人材育成に向けて各種研修を実施した。

定期的に部門長会議を開催し、全部門が情報を共有するとともに業務の応援や安全対策等について協議を行った。

仕様書に基づいて適正な業務遂行を行うとともに、委託にあたっては市内業者の積極的な活用に配慮して第三者委託を行った。

各取組を行ったことでエネルギー使用量を必要最低限に留めたことを評価する。また、利用者にも消灯励行を行い協力を得るなど節電対策を積極的に行ったものと評価する。

管理運営について、効率的・効果的に行われていた。また、サービス・業務品質の向上のために、職員の教育・研修に積極的に取り組むなど管理運営組織の強化・資質の向上に努めていたことも評価する。

随時業務の見直しを行うとともに即座に改善を行ったことなど、管理水準の向上に努めたことを評価する。

本市の承認を得て受託者に指示・検査等を適正に実施したものと評価する。また、障がい者施設に業務を委託することは札幌市の障がい者施策に合致しており評価する。

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

開催回	協議・報告内容
第1回 4/22	新型コロナウイルス感染拡大防止対応について(夏期営業開始前の準備状況等)
第2回 6/25	新型コロナウイルス感染拡大防止対応について(イベントの中止、SLバスの運行等)
第3回 8/19	新型コロナウイルス感染拡大防止対応について(イベントの中止、内容及び名称の変更によるイベント開催等)
第4回 10/21	新型コロナウイルス感染拡大防止対応について(イベントの結果報告等)
第5回 12/16	新型コロナウイルス感染拡大防止対応について(冬期施設活用事業等) R3年度の業務計画について
第6回 2/19	冬期施設活用事業の結果報告 売店事業、レストラン事業、センターハウスの魅力アップ事業等
<p><協議会メンバー></p> <p>札幌市経済観光局農政部農政課長、同農政係長、同担当職員 指定管理者構成企業の本社担当責任者 サッポロさとらんど施設長、同副施設長、同副施設長代行</p>	

▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)

資金管理については、指定管理業務、自主事業毎の区分経理を実施、入金・入金の根拠資料を整備し、使途や取扱いについて透明性を確保し、日常から適切な資金管理を徹底した。

利用料金収入等の現金等の取扱いは、「現金等取扱規程」により適切な現金等の管理取扱いを行った。

▽ 要望・苦情対応

要望・苦情については対応マニュアルに基づいて対応している。苦情は全職員に周知して改善等の対応を行い、必要に応じて職員への指導・研修を実施した。

要望等には可及的速やかに対応した。

又、札幌市への報告も速やかに実行した。

▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)

業務計画書・事業報告書を始め、業務日報、各営業前点検記録、業務の実施に関する帳簿や書類を適切に記録した。

各種アンケート等によりセルフモニタリングを実施した。アンケートの集計を毎月実施して利用者ニーズの把握とセルフモニタリングに努めた。

又、毎月の管理運営業務報告書を始め、環境保全行動報告書、消防訓練等の報告書、施設に関する各種統計書類等を適宜、札幌市に提出した。

札幌市の検査に対しては、検査をスムーズに行えるよう必要書類の提示等、積極的に対応した。

施設の利用状況、セルフモニタリングの結果等を踏まえ、自己評価を実施して、以後の運営において管理水準の向上に努めた。

管理運営水準の維持・向上のため2か月に1回、運営協議会を実施した。運営協議会以外にも札幌市に管理業務の状況報告をこまめに行った。必要に応じて、随時、札幌市との打ち合わせ等を実施し、管理運営水準の維持・向上に向けた取り組みを遅滞なく実施することができた。

定期的に運営協議会を実施し、業務報告や連絡事項及び管理運営上の問題点などを協議し、業務の改善が行われていたことを評価する。また、管理運営水準の維持向上への取組を継続していることを評価する。

指定管理業務、自主事業の明確な区分経理を実施した。適切な資金管理、現金管理を徹底し、透明性・公明性を確保した。

資金・現金の管理について、適正に行われていたことを評価する。

苦情・要望への対応、札幌市への報告を速やかに実施した。又、利用者のニーズに最大限の対応を行った。

苦情・要望への対応、札幌市への報告について、適正に行われていたことを評価する。

仕様書で定められた書類等を適切に記録・保管した。各種アンケートを実施して利用者ニーズの把握、セルフモニタリングに努めた。報告書類等、必要書類を適宜、札幌市に提出した。札幌市の検査や確認・要請に対して、積極的に協力し、積実に対応した。

適正に記録、報告が行われたほか、アンケート等のセルフモニタリングもイベントごとに随時行い、運営協議会に速やかに報告が行われたこと等を評価する。

(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上	<p>▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p> <p>労働関係法令を遵守するとともに、労基署に就業規則や時間外労働・休日労働に関する労使協定等の届出を適切に行った。</p> <p>職員の雇用環境の維持向上のため、空気環境測定等を実施した。</p> <p>衛生管理者を選任し、毎月、労働安全衛生委員会を開催して職員の健康維持・労働災害の防止に努めた。</p>	<p>労働関係法令を遵守し、必要書類の届出を適切に行った。</p> <p>雇用環境の維持向上、健康維持・労働災害の防止に努めた。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">労働関係法令を遵守し、監督官庁への届出など適切に行われていることを評価する。</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	労働関係法令を遵守し、監督官庁への届出など適切に行われていることを評価する。																			
A	B	C	D																								
労働関係法令を遵守し、監督官庁への届出など適切に行われていることを評価する。																											
(3)施設・設備等の維持管理業務	<p>▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)</p> <p>各業務の実施にあたっては利用者、従事職員、近隣住民等の安全確保を最優先として十分に配慮した。事業の開始・終了時や毎日の始業前・終業後に園内の点検を実施して危険や施設の損壊等の異常が無いことを確認した。</p> <p>開園時間中には、管理者(施設長、副施設長)が毎日2回園内を定期巡回し、職員も当該部門毎に巡回を実施して安全確保に努めた。</p> <p>年間を通しての駐車場の無料開放等を実施して、市民サービスの向上と利用しやすい施設の実現に努めた。</p> <p>札幌市又は第三者に損害を与えた場合に備え、仕様の水準を満たした「施設管理者賠償責任保険」や、「生産物賠償保険」に加入した。</p> <p>各業務の問合せ先等、必要な連絡先を利用者に十分に案内し、担当職員が無線を携帯することによって最短の時間で連絡可能な体制を確保した。夜間及び休園日についても「夜間緊急連絡先」や「職員緊急連絡網」を整備して連絡体制を確保した。</p> <p>▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)</p> <p>ア 衛生管理業務</p> <p>第三者委託により実施し、必要な指導、指示、検査、確認等を行った。日常清掃(休園日を除く)と定期清掃、飲料水等の管理、空気環境測定等を実施し、清潔で健康的な環境を維持した。</p> <p>イ 警備業務</p> <p>第三者委託により実施し、必要な指導、指示、検査、確認等を行った。機械警備の活用等により、効果的かつ適正な警備業務を遂行した。</p> <p>ウ 施設及び設備の保守点検業務</p> <p>第三者委託により実施し、必要な指導、指示、検査、確認等を行った。計画的に保守点検業務を行ない、施設及び設備を良好に維持管理した。また、建物及び周辺的安全環境を保持し、利用者の安全を確保した。</p> <p>エ 飼養動物管理業務</p> <p>関係法令を遵守し、管理業務を行った。衛生的な環境の維持に努め、家畜の健康状態をしっかり把握した。馬の調教、糞尿の堆肥化等も仕様の水準を達成した。</p> <p>オ 緑地管理業務</p> <p>緑地管理は仕様書の水準を達成した。</p> <p>芝刈りや施肥等を適切に行ない快適な環境を維持するように努めた。又、枯れた樹木の伐採や枝払い等を適切に実施した。</p>	<p>利用者の安全確保に常に配慮して施設・設備等の全般的な機能を良好に維持管理し運用した。</p> <p>駐車場の無料開放等の利用者サービスを実施し、市民サービスについても十分な成果をあげることができた。</p> <p>施設・設備等の維持管理は仕様の水準を達成した。</p> <p>利用者のレクリエーションの場、憩いの場となるよう園内の清掃・芝生等の管理に努め、良好な環境を維持した。</p> <p>開設(平成7年)より二十数年経過しており、施設や設備が老朽化しているので、安全確保に向けてこまめに点検し、修繕対応を迅速に行った。</p> <p>備品全件の有無及び状態を点検し、札幌市に報告した。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">市民サービスの向上につながるよう、管理体制の構築と維持に努めていることを評価する。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">緊急対応や保険への加入など事故等発生時への備えが十分行われていることを評価する。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">仕様書で規定する管理水準に基づいた管理を行っていたものと評価する。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">飼養動物の衛生管理や、要求水準を大きく超える緑地管理など、市民が憩うことのできる場の提供を行い、利用者のニーズに応えるような管理を行ったことを高く評価する。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">また、機械類の備品が老朽化する中で、日々の管理を適切に行っていることを評価する。</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	市民サービスの向上につながるよう、管理体制の構築と維持に努めていることを評価する。				緊急対応や保険への加入など事故等発生時への備えが十分行われていることを評価する。				仕様書で規定する管理水準に基づいた管理を行っていたものと評価する。				飼養動物の衛生管理や、要求水準を大きく超える緑地管理など、市民が憩うことのできる場の提供を行い、利用者のニーズに応えるような管理を行ったことを高く評価する。				また、機械類の備品が老朽化する中で、日々の管理を適切に行っていることを評価する。			
A	B	C	D																								
市民サービスの向上につながるよう、管理体制の構築と維持に努めていることを評価する。																											
緊急対応や保険への加入など事故等発生時への備えが十分行われていることを評価する。																											
仕様書で規定する管理水準に基づいた管理を行っていたものと評価する。																											
飼養動物の衛生管理や、要求水準を大きく超える緑地管理など、市民が憩うことのできる場の提供を行い、利用者のニーズに応えるような管理を行ったことを高く評価する。																											
また、機械類の備品が老朽化する中で、日々の管理を適切に行っていることを評価する。																											

	<p>カ 修繕業務 修繕工事については札幌市の承認を得て行った。早急かつ適切な対応により修繕を実施したので利用者の利用に支障がなかった。安全管理等にも充分配慮して修繕を実施したので事故等もなかった。</p> <p>キ 備品管理 備品は、利用者の利用に支障が生じる事の無いよう、常に保守点検を行った。又、不具合の生じた備品については札幌市に報告のうえ、随時修繕や代用品の確保等必要な対応を適切に行った。備品全件の有無及び状態を点検し、札幌市に報告した。</p> <p>ク 駐車場管理 巡回等で駐車場利用車両の管理を行った。利用者が円滑に駐車できるよう案内・誘導看板を設置し、利用者の円滑な利用を確保した。</p> <p>▽ 防災 サッポロさとらんどが(大規模な火事における)広域避難場所であることも踏まえ、「防災計画書」に基づいて適切な防災体制を構築し、防災に努めた。「災害対応マニュアル」により災害の発生に備えると共に、4月と11月に消防訓練を、4月と7月とに防災教育を実施して、災害発生時に適切な行動が行えるよう備えた。</p>	<p>日頃から研修や訓練を実施して防災に努めた。災害は、いつ、どこで発生するか予測できないので今後も怠りなく備えを続けていく。</p>	<p>日頃から防災体制の確立に努めていたことを評価する。</p>																
(4)事業の計画・実施業務	<p>▽ 農業体験に関する業務</p> <p>ア 収穫体験業務 仕様の水準に従い、収穫体験をすることができる農作物を栽培して利用者の体験に供した。体験予定のカレンダーをホームページに掲載し、又、その日収穫できる作物を毎日ブログでお知らせして利用者の利便性に配慮した。 コロナ禍による施設閉鎖のため、体験日数は前年度に比べて23日減ったが、参加人数は前年度と比べて23,084名(約83%)増えた49,826名となり、過去最高となった。</p> <p>イ 栽培・収穫・加工体験業務 仕様の水準に従い、栽培・収穫・加工等を体験できるコースを10コース実施した。 コロナ禍により、5月に実施する播種・植え付けは中止とし、代わって職員が作業を行った。コロナ禍の影響で「親子で石窯ピザコース」が1回目が中止、3回目が学校の夏休みの短縮のために1組のみに留まる等の影響を受けたが、全体の参加組数は前年度比10組(約5%)増の193組となった。</p> <p>ウ 学校教育との連携業務 札幌市内の小学校等を対象に農産物の知識を習得することを目的とした事業を実施した。 畑については、じゃがいも、エダマメ、サツマイモ、トウモロコシ等の農産物の植え付け・栽培・収穫・調理等の体験を学習する内容で実施しているが、コロナ禍により植え付け等が中止となり、10校がキャンセルした。そのため、体験学習を行ったのは前年比14校減の27校に留まった。 水田学習もコロナ禍により田植えが中止となり4校がキャンセルした。そのため、体験学習を行ったのは前年比4校減の7校に留まった。 全体では前年度から18校減の34校が体験学習を行った。</p>	<p>収穫体験は、仕様の水準に従い、利用者の体験に供した。前年度に比べて体験日数は23日減ったが、体験人数は49,826名で過去最高となった。</p> <p>栽培・収穫・加工体験業務を仕様の水準に従い、10コースで実施した。参加組数は前年度比10組(約5%)増の193組だった。</p> <p>仕様書の要求水準(25校以上)を大きく超える34校が参加した。今後も具体的な体験プログラムを送付する等積極的に利用の働きかけを行い参加者の増加に努める。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">適切な圃場管理の実施、収穫可能作物の細やかな情報提供等により、コロナ禍による施設閉鎖を実施しながらも過去最高の体験人数を記録したことを評価する。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">ニーズを把握したうえでコースを見直し実施したことを評価する。感染症対策に取り組みながら、実施可能な業務を模索・継続する姿勢も評価できる。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">積極的な働きかけにより、利用する学校数が大きく増えたことを高く評価する。感染症対策に取り組みながら、実施可能な業務を模索・継続する姿勢も評価できる。</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	適切な圃場管理の実施、収穫可能作物の細やかな情報提供等により、コロナ禍による施設閉鎖を実施しながらも過去最高の体験人数を記録したことを評価する。				ニーズを把握したうえでコースを見直し実施したことを評価する。感染症対策に取り組みながら、実施可能な業務を模索・継続する姿勢も評価できる。				積極的な働きかけにより、利用する学校数が大きく増えたことを高く評価する。感染症対策に取り組みながら、実施可能な業務を模索・継続する姿勢も評価できる。			
A	B	C	D																
適切な圃場管理の実施、収穫可能作物の細やかな情報提供等により、コロナ禍による施設閉鎖を実施しながらも過去最高の体験人数を記録したことを評価する。																			
ニーズを把握したうえでコースを見直し実施したことを評価する。感染症対策に取り組みながら、実施可能な業務を模索・継続する姿勢も評価できる。																			
積極的な働きかけにより、利用する学校数が大きく増えたことを高く評価する。感染症対策に取り組みながら、実施可能な業務を模索・継続する姿勢も評価できる。																			

エ 市民農園管理業務

貸出期間・利用時間、利用者の公募と抽選での決定、園内で製造した堆肥の活用等、仕様書の要求水準を満たして市民農園管理業務を行った。適切な管理・運営を行うとともに、栽培指導等を充実させたので、利用者アンケートでは97.8%が「満足」及び「やや満足」と回答した。

オ 手づくり体験業務と農業・畜産等講座

仕様書の水準に従い、バターづくりやアイスクリームづくり等の各種手づくり体験を企画したが、コロナ禍による約2か月の施設の休館、ソーシャルディスタンスを確保するための実施定員の大幅な制限、ほとんどの団体利用者がコロナ禍により団体移動を自粛して予約申込を取り消した(団体利用者は前年度比81団体3,170人減)等の理由により、手づくり体験参加者は4,257名で前年度比39.1%(6,617名減)に留まった。

料理実習、農産・畜産加工、工芸等の各種講座も仕様書の水準に従って企画したが、約2か月の施設の休館によりスケジュール調整が困難となって中止した講座があったこと、ソーシャルディスタンスを確保するために講座の定員を削減したこと等により、講座参加者は934名で前年度比74.7%(315名減)となった。利用者ニーズに応えるために専門分野で活躍する多彩な顔触れの講師を招いて幅広い内容で実施したので、講座利用者アンケートによる満足度は97.1%(前年度比0.6%増)と大変好評だった。

▽ 緑とふれあい、憩うことのできる場を市民に提供する業務

ア パークゴルフ場運営

良好なプレー環境を維持するため、施設の点検や補修等を実施し、常に3コースを利用に供した。利用者は7,994人(前年度比2,543人減)で、コロナ禍による1か月強の休業等の影響により約25%減少した。

イ SLバス

定期点検や日常点検をしっかりと行って事業を運営し、無事故で運行を終えた。

コロナ禍の影響により、約2か月休業した。又、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、乗車定員を大きく制限した。そのため、全期間通常営業した場合は2万人を超える利用者数が、14,725人に留まった。

ウ 引き馬

馬の体調を把握しながら、また安全確保に留意して運行し、事故無く事業を終了した。

コロナ禍の影響により、約1か月休業した。利用者数は4,154人で前年度比35%減(2,299人減)と大幅に減少した。

エ 馬車

馬の体調を把握しながら、安全確保に留意して運行した。

コロナ禍の影響により、約1か月休業した。また、7月3日から馬車馬が体調を崩して運休した。22歳と高齢だったためそのまま回復せずに死亡。結局、運行期間は約1か月に留まった。

利用者数は845人で前年度比89%減(6,680人減)と大幅に減少した。

仕様書の水準を達成して適切な管理・運営を行うとともに、栽培指導等を充実させて利用者アンケートで高い評価を得た。

手づくり体験、講座とも新型コロナウイルス感染拡大防止対応をしっかりと行って実施した。約2か月の施設の休館等、コロナ禍の影響が大きく参加者数は前年度を大きく下回ったが、講座参加者のアンケート結果の満足度が97.1%に達する等質の高い体験を参加者に提供出来た。

仕様書に基づき適切な管理・運営を行った。コロナ禍の影響により利用者数は大きく減少した。

仕様書に基づき適切な運行を行った。コロナ禍の影響により利用者数は激減した。

仕様書に基づき適切な運行を行った。コロナ禍の影響により利用者数は激減した。

コロナ禍による休業と高齢(22歳)だった馬車馬が体調を崩してその後死亡したため、運行期間は約1か月に留まった。そのため利用者数は大幅に減少した。

適切な管理・運営を行い、栽培指導など高いサービスを維持したことで、利用者から高い評価を得たことを高く評価する。

利用者ニーズに応えるとともに高い満足度を維持したこと、食と農に対する市民の理解と関心を高めたことを高く評価する。感染症対策に取り組みながら、実施可能な業務を模索・継続する姿勢も評価できる。

芝生管理など、適正な管理を行っていることを評価する。感染症対策の取組について、引き続き協力をお願いしたい。

仕様書に基づき適正な管理を行っていることを評価する。感染症対策のほか、安全運転、無事故運行に努めることを期待する。

感染症対策の影響による休業や運営体制の変更に伴って利用者数が減少したことはやむを得ないと認識している。感染症対策の影響による休業期間のほか、馬車馬の死亡により、運行期間と利用者数が減少したことはやむを得ないと認識している。

<p>オ レンタサイクル 総合整備点検や日常点検を行い安全管理に充分注意して事故なく事業を運営した。 コロナ禍の影響により、約1か月休業した。 新型コロナウィルス感染拡大防止対応を徹底するため、消毒とソーシャルディスタンス確保をしっかりと行って営業出来る様に、2輪車の貸し出しを中止して4輪車のみでの貸し出しで実施した。そのため、利用者数は14,088人で前年度比46%減(11,796人減)と大きく減少した。</p> <p>カ 炊事広場 新型コロナウィルス感染拡大防止のため炊事広場を閉鎖し、利用休止とした。</p>	<p>レンタサイクルは仕様書に基づき事故なく実施した。 コロナ禍の影響により、約1か月休業、又、2輪車の貸し出しを中止した。 そのため利用者数は大きく減少した。</p> <p>コロナ禍のため炊事広場を閉鎖し、利用を休止した。</p>	<p>感染症対策の影響による休業や運営体制の変更に より利用者が減少したことはやむを得ないと認識している。感染症対策の取組について、引き続き協力をお願いしたい。</p> <p>感染症対策の影響について、やむを得ないと認識している。</p>
<p>▽ 農業者と消費者の交流の場を提供する業務</p> <p>ア 「ファーマーズマーケット事業」運営 さとらんどセンター前、センターポーチ、交流館等で市内及び近郊農家による直売方式で実施した。利用者からの意見や要望を聞き、その声を事業運営に反映させた。ホームページ等で「ファーマーズ会員募集」の取り組みを行った。ファーマーズ会員を中心とするイベント「ファーマーズ大集合」を交流館で実施し、消費者と農業者の交流、地産地消を推進した。 コロナ禍の影響により1か月以上事業を休止した。そのため、出店件数は前年度比37件減の162件に留まった。</p> <p>イ 「札幌市の農業施策との連携事業」運営 札幌市の「地産地消推進事業」や札幌近郊の農業関連団体との連携を図り、交流館を積極的に活用して「さっぽろとれたてっこ」、及び、石狩管内等の農畜産物のPR・展示・販売を実施し、来園者に対して地産地消への理解を促す取り組みを行った。 また、札幌市及び札幌連携中枢都市圏の市町村との連携を図り、12市町村の情報を発信する取り組みを行った。 コロナ禍の影響で約1か月半、さとらんど市場の営業を休止し、苗もの販売等を取り止めた。そのため、さとらんど市場のレジを通過したお客様は32,877人で前年度比36%減(18,528人減)、販売金額は約1,363万円の前年度比32%減(434万円減)となり、大きく減少した。</p>	<p>ファーマーズ会員を中心とするイベントを交流館で実施、消費者と農業者の交流、地産地消を推進した。 コロナ禍の影響により出店件数は減少した。</p> <p>交流館で「さとらんど市場」の運営を行い札幌市内や石狩管内等の農畜産物のPR・展示・販売を実施した。 また、札幌市及び札幌連携中枢都市圏の市町村との連携を図り、情報を発信する取り組みを行った。 コロナ禍の影響で利用者数と売り上げは大きく減少した。</p>	<p>各種イベント時にファーマーズマーケットを開催し、適切に運営したことを評価する。 感染症対策の取組について、引き続き協力をお願いしたい。</p> <p>地産地消への理解を促す催事開催実施、積極的なPRにより、札幌広域圏の農産物の普及に尽力したことを評価する。さっぽろ連携中枢都市圏の農産物の普及についての取組みも評価できる。 感染症対策の影響について、やむを得ないと認識している。</p>
<p>▽ 農業に関する情報収集及び提供業務</p> <p>ア 農業に関する情報の収集・提供業務 「さっぽろ農学校入門コース」の講義を始め、家庭菜園や市民農園に取り組む市民にとって有益な10項目の農に関する情報を収集し、ホームページで提供した。</p> <p>イ 農業振興イベント業務 コロナ禍の影響で、予定していた13の農業振興イベントのうち過半数の7つを中止した。また、開催した6つのイベントについても新型コロナウィルス感染拡大防止のため、三密を防ぐ対応を行い、規模の縮小や内容の変更を行わざるを得なかった。そのため、イベント入園者数は78,550人となり前年度比80%減(302,700人減)と激減した。また、イベントに対するアンケートの満足度は、前年度に比べて「普通」という評価が8%も増加し、満足度は73.5%に留まり、前年度(82.6%)から9.1%低下した。</p>	<p>ホームページを有効活用して農業情報を提供した。</p> <p>コロナ禍の影響で、予定の過半数の7つを中止した。また、開催したイベントも規模の縮小や内容の変更を行わざるを得なかった。そのためイベント入園者数は激減し、アンケートによる満足度も低下した。</p>	<p>ホームページを有効活用していることを評価する。</p> <p>感染症対策に関係したイベントの中止、入園者数の減少、アンケート満足度の低下については、やむを得ないと認識する。 感染症対策に取り組みながら、実施可能な業務を模索・継続する姿勢も評価できる。</p>

<p>▽ 農業に関する研修講習等の場の提供業務</p> <p>ア 市民農業講座にかかる企画・運営 「さっぽろ農学校入門コース」を全19回計38講義で実施する計画であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止とせざるを得なかった。</p> <p>イ 園芸相談業務 市民農園栽培相談員2名、園芸相談員2名の計4名を配置したが、コロナ禍の影響で、市民農園の相談業務を7日間休止し、苗もの販売の中止により園芸相談員の相談業務を9日間中止した。 又、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、室内での園芸相談業務を取り止め、屋外や電話での相談のみに対応を変更せざるを得なかった。 そのため、相談件数は3,586件で前年度比9%減(339件減)と減少した。 特に関心の高い相談についてはホームページでも閲覧できる対応を行った。</p> <p>ウ 貸室管理業務 ※(5)施設利用に関する業務にて記載</p>	<p>コロナ禍の影響で、「さっぽろ農学校入門コース」を中止した。</p> <p>相談員を4名配置した。 コロナ禍の影響で、市民農園相談業務の一時休止や苗もの販売時の相談業務の中止を余儀なくされた。相談方法も屋外や電話での相談のみに変更せざるを得なかった。そのため、相談件数は減少した。</p>	<p>感染症対策の影響について、やむを得ないと認識している。</p> <p>相談体制の充実、ホームページの活用など、市民の要望に対応したことを評価する。 感染症対策に取り組みながら、実施可能な業務を模索・継続する姿勢も評価できる。</p>
<p>▽ その他さくらんの設置目的を達成するために必要な業務</p> <p>ア 札幌市農業支援センターで生産された農産物等の売払い 仕様書に従い、札幌市農業支援センターで生産された農産物等の施設利用者に対する売払いを、札幌市と協定を締結のうえ、適切に行った。 コロナ禍の影響で、約1か月弱営業を休止した。</p> <p>イ 冬期施設活用事業 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ソーシャルディスタンスの確保や乗車人数の制限、十分な換気対策等の感染防止対応をしっかりと行い、完全に屋外で実施出来る事業のみを行った。 これ以上無いと言う程天候に恵まれたこと。又、他施設が改修工事のために冬期事業を休止したこと。そしてコロナ禍の影響で、利用者が感染リスクが低くて来園しやすい屋外施設を求める傾向が強かったこと。これらの条件が揃ったことから利用者数は16,813人となり過去最高を記録した。(前年度は大規模改修工事のため冬期は休園。一昨年度の利用者数は14,053人であった)</p>	<p>農産物の特徴や調理法等、利用者にとって有用な情報の提供を心掛けて売払いを行った。</p> <p>新型コロナウイルス感染防止対応をしっかりと行い、完全に屋外で実施出来る事業のみを行った。 好天や他施設の事業休止、コロナ禍の影響で感染リスクが低く来園しやすい屋外施設を多くの方が求めたことから利用者数は過去最高となった。</p>	<p>利用者に農産物に関する情報提供を行いながら、適切に実施したことを評価する。</p> <p>要求水準を満たして実施したこと、過去最高の利用者数を記録したことを評価する。 感染症対策に取り組みながら、実施可能な業務を模索・継続する姿勢も評価できる。</p>

2 自主事業その他

▽ 自主事業

売店事業	コロナ禍のため、事業中止		
自動販売機事業	手数料収入	125万円	
パークゴルフ用具のサービス事業	収入	44万円	
おもしろ自転車事業	収入	198万円	
牧場動物のえさの販売事業	収入	160万円	
キャラクターグッズの販売事業	収入	2.6万円	

コロナ禍による施設の閉鎖や休業により、おもしろ自転車以外の事業は1か月強休業となった。おもしろ自転車事業は感染拡大防止のため3か月強休業した。そのため、収入は計画の半分以下の530万円に留まった。

注:売店事業は実施する計画であったが、売店業者がコロナ禍の影響により急遽、休業することとなったため、事業を中止した。

注:令和元年度まで実施していたレストラン事業は、レストラン業者がコロナ禍等の影響により令和元年度で撤退したため、令和2年度は事業計画から除いた。

▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等

修繕工事や冬季園内除雪等の第三者委託、SLバスや遊具、自転車等の点検、手づくり体験の原材料、印刷物、ガソリン・A重油・灯油・ガス・電気等の購入を市内企業に発注し、市内企業の積極的な活用を図った。

封筒等の印刷物を障がい者施設へ発注する等、福祉施策への配慮を心掛けた。障がい者の就労拡大に協力するため、毎年ラベンダー畑やレンガ花壇の除草業務を知的障がい者施設へ委託していたが、コロナ禍により令和2年度は中止せざるを得なかった。

自主事業は、さとらんの設置目的を踏まえて計画し、一般の利用を妨げないよう配慮するとともに、市民が利用しやすい料金を設定して、適切に実施した。

コロナ禍の影響による施設の閉鎖や事業の休止により営業期間が短縮されたため、収入は計画の半分にも満たなかった。

売店業者がコロナ禍の影響により休業したため、売店事業を中止した。

市内企業の活用に積極的に取り組んだ。障がい者施設へ印刷物の発注を行う等、福祉施策への配慮を心掛けた。

A	B	C	D
さとらんの設置目的を踏まえて適切に実施したことを評価する。売店事業、レストラン事業の事業者の休業や撤退において、事業再開に向けた業者選定や運営に関する検討等、指定管理者による積極的な働きかけが必要であったと認識している。今後の管理運営における対応に期待する。			

適切な配慮を念頭に事業展開を行ってきたものと評価する。

3 利用者の満足度

▽ 利用者アンケートの結果			A	B	C	D
実施方法	4月～3月に実施。 一般利用者向け、各種体験・講座の参加者向け、イベント開催時の利用者向け、農学校・市民農園等の個別事業の参加者向け等、利用状況に応じてアンケートを実施した。 アンケートの有効回答の総数は1,519通。	総合満足度、職員の接遇に関する満足度、各種体験・講座等参加者の満足度は仕様書の目標の80%を上回った。不満のご意見は全てのアンケートで3%未満であり、アンケート全体の満足度は高い。特に各種体験・講座等の満足度については内容の充実に注力し、利用者アンケートの満足度は97%と極めて高かった。コロナ禍の影響により、イベントのアンケートのみ仕様書の目標である80%以上の満足度を達成できなかった	各事業ごとに詳細にアンケートを実施し、利用者意見の分析及び事業の改善に活用し、総合満足度が80%を上回ったことを評価する。イベントのアンケートについて、感染症対策の影響を受けたことはやむを得ないと認識している。			
結果概要	<ul style="list-style-type: none"> 総合満足度は、不満・少し不満と回答された方が1%、普通が14%、満足・とても満足が85%だった。満足・とても満足は仕様書の目標を5%超えた。 職員の接遇に関するアンケートは、悪かった・あまり良くなかったが1%未満。普通が16%、大変良かった・まあ良かったが83.6%で、大変良かった・まあ良かったは仕様書の目標を3.6%超えた。 各種体験・講座参加者の満足度は、不満・やや不満が1%未満、普通が3%弱、満足・やや満足が97%だった。満足・やや満足が仕様書の目標の80%を17%も超え、満足度は非常に高かった。 イベントの満足度は、不満・やや不満が3%弱、普通が23.7%、満足・やや満足が73.5%で仕様書の目標を6.5%下回った。 イベントのアンケートのみ仕様書の目標である80%以上の満足度を達成できなかったが、コロナ禍の影響を最も受けたのがイベントであるため、誠に残念ではあるがやむを得ない結果であると判断している。 利用料金についても高いと回答している利用者が少ないため、適切な範囲にあるものとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の要望に応じて以下の対応を行った。 <ul style="list-style-type: none"> 漬物の講座を増設した。 中華料理の講座を増設した。 	利用者ニーズに寄り合いながら、実施可否を検討・対応していることを評価できる。			
利用者からの意見・要望とその対応	<p>【要望】 漬物の講座は応募者が多く中々参加出来ないのので講座数を増やして欲しい。</p> <p>【対応】 新たに玄米漬けとアロニア漬けの講座を増設した。</p> <p>要望] 中華料理の講座を増やして欲しい。</p> <p>【対応】 本場の餃子作りの講座を増設した。</p> <p>【要望】 親子で参加できるイベントを増やしてほしい。</p> <p>【対応】 コロナ禍の影響により、令和2年度は対応出来なかったため、今後、前向きに検討したい。</p> <p>【要望】 遊具を増やして欲しい。</p> <p>【対応】 木製遊具が経年劣化しており、所管課と更新に向けて協議を進めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の要望に応じて以下の対応を行った。 <ul style="list-style-type: none"> 漬物の講座を増設した。 中華料理の講座を増設した。 	利用者ニーズに寄り合いながら、実施可否を検討・対応していることを評価できる。			

4 収支状況

▽ 収支 (千円)			
項目	R2年度計画	R2年度決算	差(決算-計画)
収入	299,622	291,835	▲ 7,787
指定管理業務収入	288,712	286,532	▲ 2,180
指定管理費	237,812	246,207	8,395
利用料金	19,223	13,456	▲ 5,767
その他	31,677	26,869	▲ 4,808
自主事業収入	10,910	5,303	▲ 5,607
支出	285,529	278,829	▲ 6,700
指定管理業務支出	276,323	274,210	▲ 2,113
自主事業支出	9,206	4,619	▲ 4,587
収入-支出	14,093	13,006	▲ 1,087
利益還元	0	0	0
法人税等	350	291	▲ 59
未払い消費税	13,700	12,060	▲ 1,640
純利益	43	655	612

▽ 説明

▼収入について

・利用料金収入は、計画比約577万円の減収だった。(注:コロナ禍の影響による休館補償額約377万円を差し引くと実質は約200万円の減収) 主な減収の内訳は、馬車馬の死亡による減収約95万円とコロナ禍によるレンタサイクルの貸し出し制限による減収約84万円。

・その他収入は、計画比約481万円の減収だった。(注:コロナ禍の影響による休館補償額約509万円があるため、実質は約28万円の増収) コロナ禍等の影響による各事業の減収を冬期施設活用事業の計画比約145万円増が補った。

・自主事業収入は、計画比約561万円の減収だった。約1か月の施設閉鎖・休業等、コロナ禍は各事業に影響したが中でもおもしろ自転車事業は370万円の減収となった。また、売店事業の中止により190万円の減収になった。

▼支出について

・コロナ禍の影響により収入が大幅に減少した等の理由により、消費税の支出が計画比-164万円と大きく減少した。

・指定管理業務の支出は、計画比で約211万円減少した。減少の主なものは、イベントの中止分と地産地消推進事業(さとらんど市場)の仕入れ分である。

・自主事業の支出は、計画比で約459万円減少した。減少の主なものは、おもしろ自転車事業の委託費と売店の目的外使用料である。

▼収支について

・コロナ禍の影響のため、収入全体は計画から大きく相違し、休館補償を含めても約790万円の大幅減収となった。

・全体の収支は約65万円の黒字であるが、内訳を見ると、自主事業は約68万円の黒字で、指定管理事業分は約3万円の赤字である。指定管理業務の赤字を自主事業の黒字で補った。

・収入について
利用料金収入は、コロナ禍の影響もあり計画比実質約120万円の減収となった。
その他収入は、計画比約28万円の増収だった。
指定管理費の休館による光熱水費等の減額分も含め、指定管理業務全体では計画比実質約218万円の減収となった。
自主事業収入は、コロナ禍の影響が大きく計画比約561万円の大幅な減収となった。

収入全体では、計画比約779万円の減収であった。

・支出について
コロナ禍の影響により、支出は、消費税、中止した分のイベント経費、さとらんど市場の仕入れ費、目的外使用料等が計画から大きく減少となった。

収入の大幅な減少に対応するため支出の抑制に努めたが、経年劣化や安全対策上のための修繕費については必要な対応を行ったので計画比大幅増となった。

・収支について
全体の収支は約65万円の黒字だが、指定管理事業分は約3万円の赤字で、指定管理業務の赤字を自主事業の黒字で補った。

A	B	C	D

感染症対策の影響による休館や施設の利用制限等、予測不能な事態への対処が求められる中で、支出の抑制、社会情勢と利用者ニーズに合致した事業実施等の対応を行ったことは評価できる。
感染症対策に取り組みながら、実施可能な業務を模索・継続する姿勢も評価できる。

<確認項目> ※評価項目ではありません。

▽ 安定経営能力の維持

当団体の財務状況等に問題は無く、安定経営能力を維持している。

適	不適
---	----

▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応

各条例の規定に則り、全て適切に対応した。

適	不適
---	----

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
<p>全体的に適切な管理運営を実施した。</p> <p>コロナ禍により、約1か月の施設閉鎖や事業によっては更なる休業を余儀なくされ、ほとんどの事業で売り上げ金額や参加者数は前年度を大きく下回った。</p> <p>一方で、コロナ禍は、市民に感染リスクの少ない屋外での事業への参加を促し、又、外食の自粛・自炊生活・各地の名産品の取り寄せ等、食への意識を高める効果も産んだ。</p> <p>そのため、さとらんどでは、収穫体験の参加者が過去最高を記録し、農産物の直売事業(さとらんど市場)の来場者は、夏以降、前年度を上回り、冬期施設活用事業の来園者も過去最高を記録する結果となった。また、園内の花壇に新規導入したネモフィラの見物や写真撮影のために来園者が多数訪れた事象もコロナ禍がもたらしたものと考えられる。</p> <p>利用者アンケートによる満足度は、総合満足度、職員の接遇に関する満足度、各種体験・講座等に関する満足度の3つが仕様書の目標値である80%を上回り、不満のご意見は全てのアンケートで3%未満であった。特に、各種体験・講座等に関する満足度は97%に達し、利用者に質の高い体験を提供できた。イベントに関する満足度は残念ながら80%に達しなかったが、コロナ禍の影響を強く受けて過半数のイベントを中止とせざるを得なかったため、やむを得ないことと判断している。</p> <p>広報活動には重点的に取り組み、新聞やテレビでさとらんどを数多く報道して頂く成果を得られた。又、SNS(Facebook、Instagram)の取り組みを開始し、フォトコンテストを実施してさとらんどの魅力のPRに努めた。</p> <p>以上を総合的に考慮し、良質で良好な管理運営を実施したと判断する。</p>	<p>令和2年度は、コロナ禍の影響で収穫体験の参加者が激増し、過去最高を記録した。また、園内の花の見物や写真撮影のための来園者が多く訪れた。コロナ禍により農に対する市民の関心が高まっているので、そのニーズに応えるため農業体験交流施設の根幹である農園・花壇・緑地部門の一層の充実を図りたい。</p> <p>また、コロナ禍は、外食の自粛等により市民の食に関する関心を高める結果を生じさせている。食と農に対する市民の理解と関心を更に高めるため、交流館での地産地消等に関するPRや展示の充実を図り、市民に地産地消等への更なる理解を促したい。又、講座や手づくり体験の更なる改善を行って利用者にとって魅力的な体験を提供して食への理解と関心を更に高められる様に注力したい。</p> <p>引き続き広報活動の強化に努め、市民によりさとらんどの魅力を知って頂くように努める。具体的な対応として、SNSのさらなる充実(Facebook、Instagramに加え、LINEの活用やフォトコンテストの多様化等)により農業情報を始めとする各種情報提供の充実を図る。</p> <p>施設等の老朽化に伴う修繕対応を迅速的確に行って市民の安全な利用に十分配慮すると共に、SLバスの増設や木製遊具の更新等についても適切に対応できるよう取り組む。</p>

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
<p>実施事業全般について、おおむね要求水準以上の管理運営を行っており、設置目的及び市民要求を満たした事業展開を行っている。また、自主事業に関しても創意工夫しながら利用者増加に貢献していることなどを評価する。</p> <p>感染症対策の影響による休館や施設の利用制限等、予測不能な事態への対処が求められ、当初計画通りの事業実施が困難である中で、市や関係行政の指示に従い感染の広がりや各フェーズに合わせた管理運営を行ったことは評価できる。</p> <p>感染症対策の影響により、イベントによる食と農の情報発信や体験の提供機会が減少してしまっただが、収穫体験事業において過去最高の利用人数を記録する等、利用者の食や農に関する関心の高さが伺えるとともに、利用者ニーズに合致した事業実施ができたことは評価できる。</p> <p>新たにSNSの活用を開始し、写真や動画による情報発信強化に努めたことを高く評価する。これら広報の取組が、施設や各種事業の魅力を利用者に伝え、利用者数の増加にも寄与しているものと考え、今後の展開にも期待したい。</p>	<p>さとらんどを設置目的を踏まえ、都市と農業の共存を図る拠点として、体験実習や緑との憩いの場を提供するなど、引き続き適切な管理運営を行うこと。感染症対策に取り組みながら、実施可能な業務の模索・継続を望む。なお、指定管理者内部の情報共有や意思決定について、迅速かつ適切に組織としての共有を図る体制づくりを期待する。</p> <p>当施設は1995年の開園から25年が経過し、施設・設備等の老朽化が顕著になってきている。今後も老朽化による修繕費が増加し、管理・運営の中での支出負担が多くなることが想定されるが、利用者の安全性に留意し、迅速・的確に整備されることを期待する。また、限りある予算の中で、魅力的な施設運営を行いつつ老朽化対応を実施していくためには、将来的な施設のあり方を踏まえた施設の中長期的な維持管理計画の検討が必須となる。施設の方向性や実施内容の優先順位付けを行い、更新・撤去・新設等の作業を効率的に実施していくことが求められる。市と指定管理者と協議を行いながら、今後の方向性を検討していきたい。</p> <p>また、さとらんど魅力を伝えるためのソフト事業に関する取組と展開について、指定管理者からの積極的な提案と実施を期待する。</p>